



2020 オートバックス全日本カート選手権  
OK 部門 第7戦・8戦

開催場所 ツインリンクもてぎ(栃木県)  
開催日 11月14日・15日  
参加台数 OKクラス 30台  
天候 土曜日 晴れ / 日曜日 晴れ  
路面状況 土曜日 ドライ / 日曜日 ドライ

～INTREPID JAPAN CORSE～

監督 : 佐藤奨二  
ドライバー : 佐藤凌音 / 大宮賢人  
メカニック : 伊藤進/橋本剛基/仁科真一  
エンジン担当 : K SPEED WIN  
アドバイザー : 井上寛之



2020 全日本カート選手権 第7&8戦 (ツインリンクもてぎ/北ショートコース)

2020シーズンの全日本カート選手権は新型コロナの影響でスケジュールに大幅な変更が出ている。昨年の最終戦もてぎ大会とほぼ同じ日付に同じ開催地もてぎで本年はまだ第7&8戦が行われることになった。本来の日程からリスケジュールされた11月14・15日はレースウィークの木曜日に北ショートコースですでにリスケジュール前にコース占有が入っており、チームは本来であれば走行をしていたであろう木曜日の17時からピット設営や翌日走行のマシンの準備を開始。金曜日からは全チーム同じ状況ではあるが、通常のレースウィークよりも1日走行にあてる時間が少ない環境でレースへと突入することになる。金曜日は少ない走行回数の中で、エンジンの慣らしやタイヤのフィードバックなど同時並行に様々なことを行わなければならない1日となり、若干の不安をどのチームも抱えながらの初日となった。タイムは両選手とも悪くないはずだが、各チーム各選手がエンジン慣らしや短い時間で様々なことを試している状況で、自分たちのポジションがわかりづらい状況にあった。またどうやら昨年のタイムを練習走行時から大幅に更新しているようで、タイヤの急激な進歩にも驚く。タイヤは少なくとも昨年に比べて1周あたりコンマ5秒以上は速くなっているようだ。ここツインリンクもてぎはOKクラス2年目の佐藤にとっては昨年3位を走行したものの、決勝のスタートでコースオフしたリベンジを、またルーキー大宮は前回大会のSUGOにてスピードを見せたもののかみ合わなかった悔しさをぶつけて欲しい大事な1戦。朝には0℃近辺まで下がる気温、そして日中の寒暖差もポイントになるレースとなる。



大宮 賢人 選手



佐藤 凌音 選手



## 【タイムトライアル】 佐藤 A 組 11 位(全体 22 位) / 大宮 A 組 8 位(全体 17 位)

土曜日は朝方に2本の練習走行を行い、公式練習そしてタイムトライアルへと進んでいく。佐藤凌音選手と大宮賢人選手はともにA組。なんとかスペシャルタイヤのラバーがのり、路面が重くなる前にタイムを出したいところではあるが、季節は冬となりどう転ぶのか……。OKクラスのタイムトライアルA組は14時35分にスタート。計測開始直ぐはヨコハマタイヤ勢のみがコースイン、計測スタートから約3分ほどで各車がコースイン。イントレピッドチームも佐藤、大宮の順でコースイン。タイヤや暖気が禁止となっているためにエンジンコンディショニング的に最初の2〜3周程度はウォームアップ状態。練習走行、公式練習を見るとどうやら6〜8周目に各選手タイムを出すようだ。ウォームアップ走行からプッシュする走行に両選手は移るが、佐藤のペースが鈍いように見える。チームメイトの大宮が後続にいたが、3周目で佐藤をパスしタイヤに順調に熱を入れながら自身のタイムを更新する。5周目に大宮は35、567をマーク。タイヤのコンディションがベストになるであろう7、8周回目に期待が持てる内容だが、ここでとてつもない不運。大宮から前方に2、30メートルを走行していた選手のエンジンが焼け、そこに後続の選手が接触。プラスチック製のカウルが木端微塵に上空に舞い上がる程の衝撃で その2台は走行ライン上に停止…。すぐさまイエローフラッグが振られ、後続の大宮と佐藤に接触はなかったが、当然イエローフラッグとコースのライン上に2台のマシンが停止という事もあり急減速…。不運なことに完全にアタックラップ、そして同じチームで大宮-佐藤と連結走行をしていただけにイントレピッドジャパンチームの両選手にとっては痛すぎる不運で、タイム更新を逃した…。私達にとってはとても不運であったこの事故だが、エンジンが焼けたマシンに接触してしまった遠藤選手は、相当な衝撃に自身の体を抑えながらも、もう一方の選手へ怪我が無いか気遣いをみせ、他チームながら彼のスポーツマンシップに大変感銘を受けました。



## 【第7戦 予選】 佐藤 DNF(26位扱い) / 大宮20位(F スポイラー脱落ペナルティ)

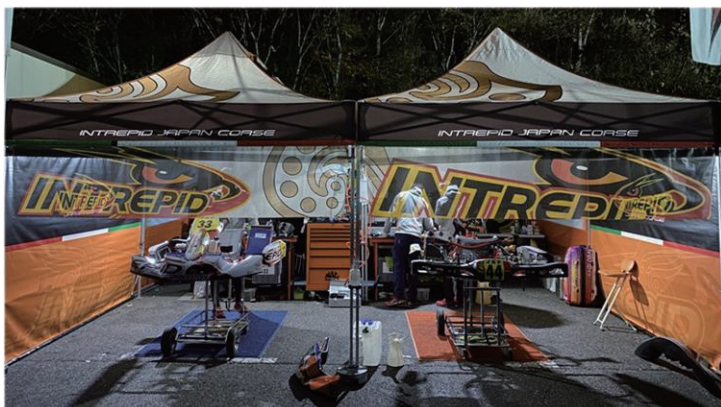


第7戦予選は土曜日15時45分にスタートが切られる。タイムトライアルで不運がありベストアタックが出来ずに佐藤は22位から、大宮は17位からのスタートとなる。スタート時に大きな混乱は見られないかに見えたが、残念ながら大宮はこの時点でフロントスポイラーがずれてしまう。スタートでは佐藤、大宮ともにジャンプアップすることは出来ずに、後方集団に吞まれてしまっている。レースペースは悪くもないが、決してTOPレベルでもない。セッティング的にも何とか、あとひとつ詰めたところ……。結局大宮は17位でゴール。しかし、もちろん前述の通りフロントスポイラーが





スタート時にズレてしまい、5秒のタイムペナルティを受け20位に後退。そして佐藤には不運に追い打ち……。前方の選手のエンジブローに巻き込まれてしまい、接触……。残り1周で1コーナーのグラベルに吞まれてしまった。タイヤも消耗が始まる予選後半でのリタイヤは非常に痛い。リザルト上は26位となり、土曜日は非常に悪い流れに飲み込まれてしまった……。しかし、タイム自体は絶望する状況ではないので、チームとメカニックはタイムトライアル、予選で学んだ状況を踏まえてセットアップを変更。日曜日の長い30週の決勝と、さらに続く第8戦に向けて解決策をチームで模索しました。



## 【第7戦 決勝】 佐藤16位 / 大宮5位

第7戦の決勝はまだ気温も上がりきっていない午前9時15分にスタートが切られる。決勝は30周のロングラン。昨日のレース後のセットチェンジも試されるレースとなる。スタートは若干スピードが速く、後方までの隊列は少し伸びながらのスタートに見える。しかしその分、後方までリスクあるスタートにはならず、接触は発生しなかったように見えた。スタート直後から大宮のペースが良い。昨日よりシャシーの動きもシャープでスタートから2周目にはポジションを5こ上げて15位。のこり28周でまだまだ前方を追えそうだ。佐藤はそこから4つ後方の19位近辺。佐藤も7つ順位を上げているようだが、昨年はここもてぎでTOP3圏内の走行を見せただけに更にスピードを見せたいところ。しかし、周回を重ねても大宮のペースよりコンマ2〜3足りない……。コーナーでは上半身が浮いて見え重心も高く感じる。コンマ2〜3の差は大きく、佐藤は大宮のようにポジションアップが上手くいかない。それどころか逆にインをさされてポジションダウンしてしまう周回もある。昨年は随所でスピードを見せた佐藤だが今年は苦しんでいる。もうルーキーだからとも言えない2年目。日々進化するスペシャルタイヤに合わせた乗り方にアジャストしたいところだ。一方の大宮は、かなりいいペース。なんと後方スタートから、上位陣に迫り出した。2周で1、2台をパスするスピードを見せ何と強豪佐々木選手もパス。つくづくあのタイムトライアルの不運や予選でのフロントスポイラー脱落ペナルティが無ければ……と、思ってしまう強烈な走りを見せてくれた。残念ながら表彰台に迫る前に30周目が来てしまい5位でチェッカ





ーとなったが、これは・・・と思わせるペース。次の第8戦予選次第では面白くなってきた。

## 【第8戦 予選】 佐藤13位 / 大宮11位



第8戦の予選は日曜日の11時20分から16周で行われる。先ほどの第7戦でセットアップの方向性は確認済み。あとは少し気温と路面温度が高くなったこの第8戦予選でどれくらい前のポジションでゴールできるか……。大事なレースとなる。スタートは1周のディレイの後にスタート。これも順調にスタート・・・と、思いきや後方でアクシデント。複数台のクラッシュが起きたが、ほんの少し前にいた佐藤と大宮は寸で難を逃れる。スタートから割と隊列はバラけてしまうが、おかげでパスはしやすい。タイムも佐藤、大宮ともに好調でそれぞれ前方のマシンを順調にパス。スタートでひやりとしたが、佐藤は9つ 大宮は6つ順位を上げ、スタート以外はまずまずのレースとなった。

## 【第8戦 決勝】 佐藤10位/ 大宮9位(F スポイラー脱落ペナルティ)

いよいよ第8戦決勝。1周のディレイの後にスタートが切られる。先ほどの予選よりゆっくりとしたスタートで、若干中盤以降がもたついてしまった。佐藤、大宮の両選手はスタートを上手くきったように見えるが大宮のフロントスポイラーには黒くタイヤ痕が……。スタートでは順位は上げられなかったがペースはいい大宮。一方の佐藤はスタートで少し順位を落とし16位前後を走行。なにか少しポジションアップに戸惑っているかのような動き。レースは序盤から前方で激しいポジション争い。大宮は1～10位までが連なるトップ集団のまだ後方。佐藤は後方グループのポジション争いから抜け出すのが難しそう……。レースはいつになく接戦の面白い展開。とにかく順位の入替えがいつになく激しい。レースはまだ7周目。大宮は順調にポジションを、しかし慎重に上げ8位、佐藤も少し遅れて13位につけている。30周の長丁場の OK クラス。マシンの特性的にはここからが面白い。10周目に大宮は7位にポジションアップ、しかも周回によっては前方よりかなり良いペースもあり表彰台も見えるレースになってきた。佐藤は大宮のラップタイムよりコンマ1～2足りない苦しいレース。しかし苦しいながらもポジションを上げている。上位でバトルが頻発し何があるか分からないレースで油断は禁物だ。レースは14周過ぎ、この決勝でも昨年のチャンピオン佐々木選手をかわし6位、5位と順位を上げていく。足がのこっていれば表彰台も乗れるレース。しかもまだ折り返しの14周。16周を終わるところからレースはここで少し落ち着きを見せ始める。さすがに各車すこしバラつきが見え始めトップ集団も縦伸びになってきた。レースは残り10周。ついに大宮が4位に浮上！前方の3位の選手もタイヤが少なくなり始めているようでペースは大宮が速い。佐藤も苦しいながらもセカンドグループでポジション争いをしている。残り5周で上位のトップ3はばらけはじめ3位の選手に大宮は少しずつ接近。しかしタイムはコンマ1～2の差で残念ながら最後は3位に上がることは出来ずにチェッカーフラッグ。大宮は4位、佐藤は10位で第8戦を終えた。レース後の車検でやはり大宮はフロントスポイラーが片方ずれていた。無念のフロントスポイラー脱落ペナルティで正式結果は9位となった。かなりスピードがあっただけに非常に悔しい結果となったが、本当にいい走りでした。タイムトライアルの不運をドライバーが良くリカバリーしてくれました。タイムトライアルと各予選でのスタートの順位後退がなければ・・・と、たればを考えてしまいます。昨年上位を走った佐藤凌音選手は今回なかなか苦戦を強いられました…元々勢いがある選手です。きっと地元の次戦鈴鹿では、昨年ルーキーながらトップを走ったスピードを見せてくれると思います！次は最終戦の鈴鹿！もうだいぶ昔ですがワールドカップやアジアパシフィック選手権でイヤニック選手や安田選手など INTREPID を駆り何度もタイトルを獲得したコースでもあり相性もいいと思います！今回活躍した大宮選手には大先輩の安田選手のような結果を、佐藤選手には昨年ルーキーデビュー戦でトップを走った続きになるような走りをさせてみせます。兎にも角にも収穫ある一戦でした！次戦までしっかり準備して鈴鹿に備えたいと思います。今大会も様々な皆様より応援賜りまして、本当にありがとうございました！引き続きご声援賜れば幸いです。





## ドライバー 佐藤 凌音 コメント



今回の茂原大会ではレースペースが悪く、苦しいレースとなりました。しかしその中でもしっかりと対応できなかったところが反省点です。ここまで正直、流れは悪く苦戦していますが、次戦はホームコースの鈴鹿です。しっかりと巻き返して有終の美を終われるように準備していきます。今大会もスポンサー様、応援して下さいました皆様、サポートありがとうございました！

## ドライバー 大宮 賢人 コメント



今回はフェアリングペナルティで悔しい思いをしましたが、茂木のレースでかなり優勝に近づけたと思います！次戦の鈴鹿はとても得意なので優勝します！ありがとうございました。

## INTREPID JAPAN CORSE 佐藤奨二 監督



今回の茂木大会は両選手とも前回大会よりレベルアップが出来たと思いますが、レースで一番重要なタイムトライアルで中団に埋もれてしまい、結果として追い上げる展開に両レース共なってしまった事が、悔やまれます。チームとして今回の経験を踏まえ、次戦は全セクション集中して上位で戦えるようにしたいと思います。最後にいつも多大なるご支援を頂きスポンサーの皆様のサポートに感謝申し上げます。次戦は地元鈴鹿に戻り、両選手の能力を最大限引き出せるよう一層努力し、最終戦を飾りたいと思います。

INTREPID  
JAPAN



TOKAIDENSO  
<http://www.tokaidenso.co.jp>

WORKS  
OIL  
AND  
SEA  
AIR

FUCHS Silkolene

G-wrap

GLARE  
GLASSPLEXIN

sinter

GREYHOUND  
RACING SEATS  
MAKES THE DIFFERENCE

Triple K

MOLECULE  
KEEP IT CLEAN

KE  
Technology



DISPLAY  
SATOH